



今日の食支援活動の価値について
: 2021年調査、2023年調査から

7th May 2024 (Tue)
Meals on Wheels Japan

2021年アンケートの概要

- 「コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」
- 実施主体:(一社)全国食支援活動協力会、千葉大学人文科学研究院清水洋行研究室
- 実施期間:2021年8月10日～9月20日
- 調査対象:以下の活動で、2021年7月時点で活動中ないし活動休止中のもの。
①配食サービス、②こども配食、③会食会、④地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ(以下では「地域食堂等」とする)、⑤こども食堂、⑥フードパントリー

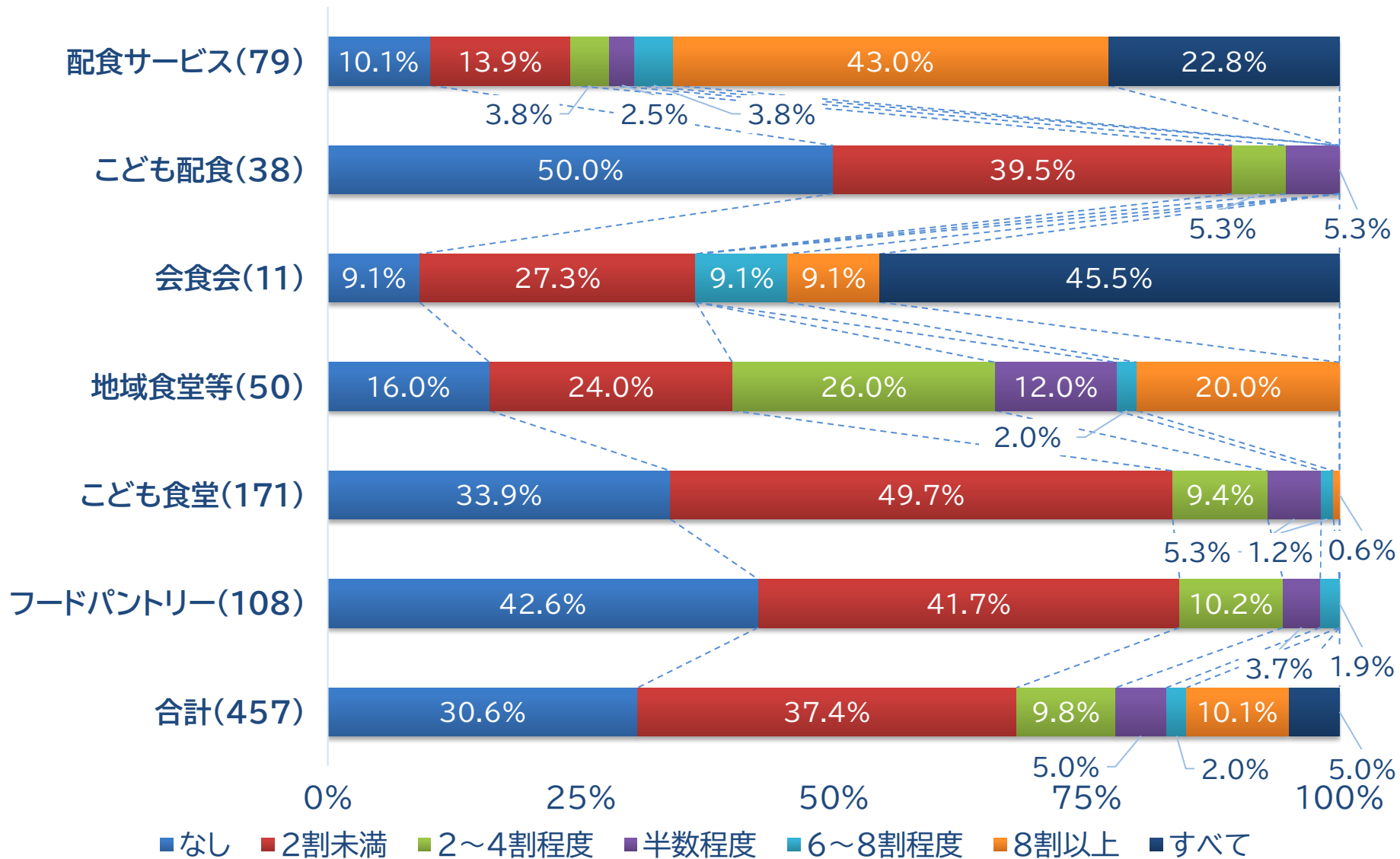
図表1 有効回答【2021年調査】

		実施中の活動	休止中の活動	合計
Webからの回答 (303団体)	活動数	304活動	41活動	345活動
	割合	88.1%	11.9%	100.0%
冊子による回答 (175団体)	活動数	180活動	41活動	221活動
	割合	81.4%	18.6%	100.0%
合計 (478団体)	活動数	484活動	82活動	566活動
	割合	85.5%	14.5%	100.0%

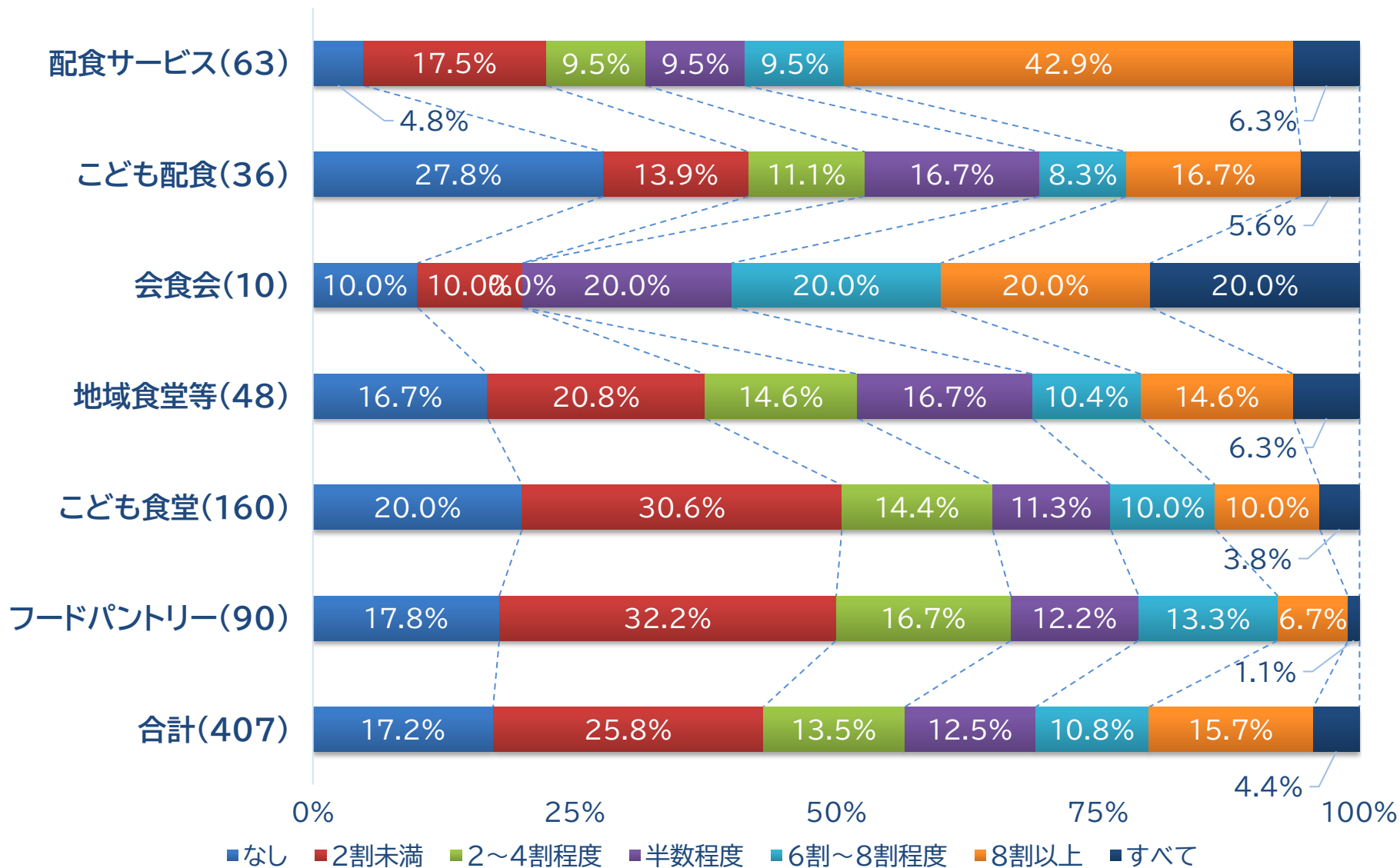
図表2 活動種類別・回答票別の有効回答数【2021年調査】

	活動中		活動休止中		合計	
	活動数	割合(%)	活動数	割合(%)	活動数	割合(%)
配食サービス	84	17.4%	3	3.7%	87	15.4%
こども配食	39	8.1%	1	1.2%	40	7.1%
会食会	11	2.3%	10	12.2%	21	3.7%
地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ	56	11.6%	29	35.4%	85	15.0%
こども食堂	180	37.2%	36	43.9%	216	38.2%
フードパントリー	111	22.9%	2	2.4%	113	20.0%
不明・無回答	3	0.6%	1	1.2%	4	0.7%
合計	484	100.0%	82	100.0%	566	100.0%

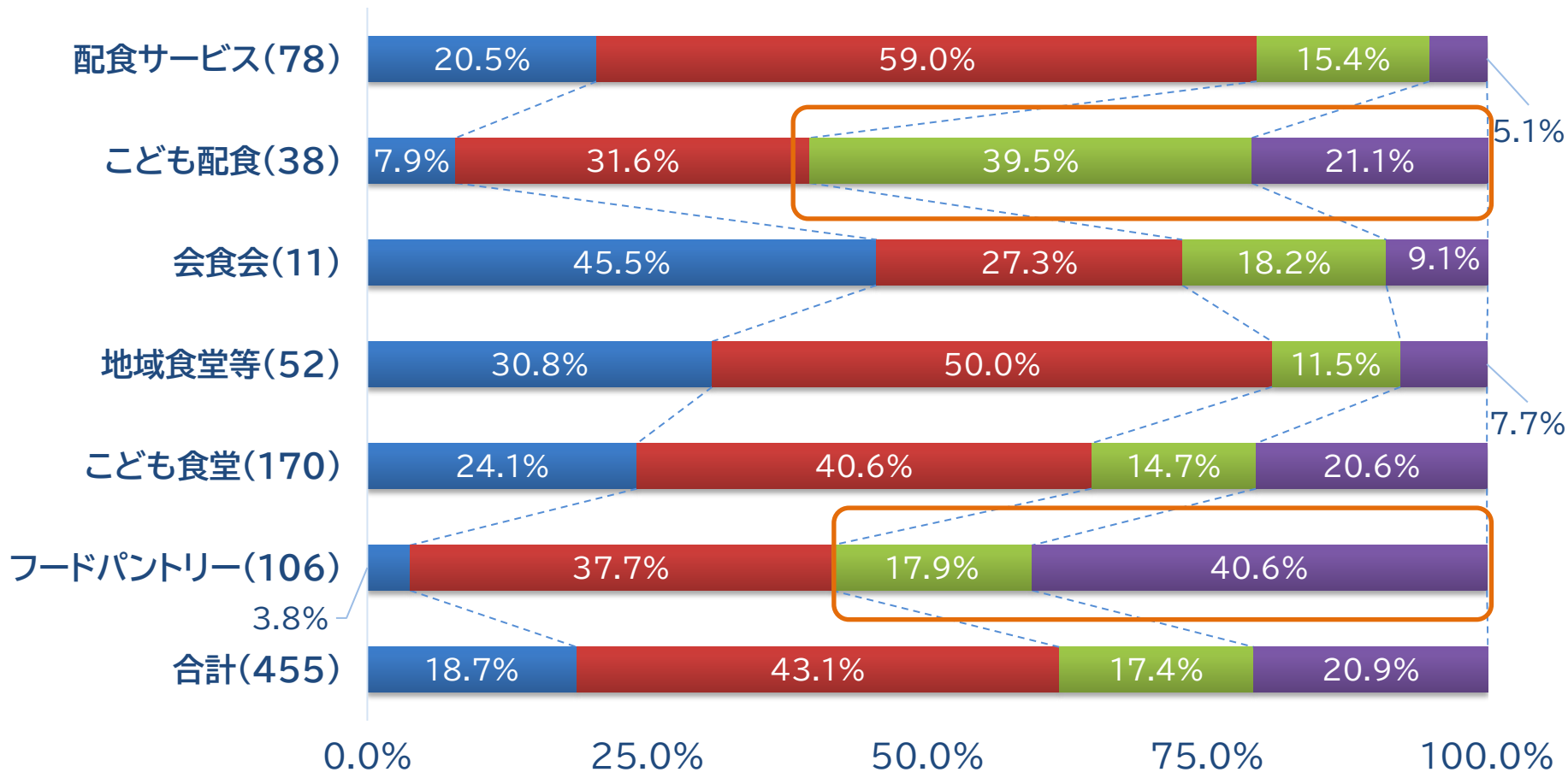
図表3 活動形態別・利用者に占める65歳以上の人の割合
 【実施中の活動のみ】 【2021年調査】



図表4 活動形態別・ボランティアに占める65歳以上の人の割合
 (実施中の活動で、ボランティアがいる活動のみ) 【2021年調査】



図表5 活動形態別・コロナ禍への対応
 (実施中の活動のみ) 【2021年調査】



- コロナ禍でいったん休止し再開した
- コロナ禍前からずっと継続している
- コロナ禍の前の対象者を別のかたちで支援している
- コロナ禍以降に新たに始めた

コロナ禍以降の新しい活動

図表7 活動形態別・利用者に対する活動の効果
 (3つまで選択。実施中の活動のみ) 【2021年調査】

(%)

	望ましい生活リズムや習慣が身につく	学びの機会になる	食育の機会になる	食事を楽しむことができる	栄養を摂ることができる	他の人と交流できる	心のよりどころとなる	出番や役割を得られる	経済的な支援になる	困りごとを相談・発信できる	地域や社会の情報を得られる
配食サービス(72)	31.9	0.0	15.5	47.2	73.0	36.1	18.1	1.4	18.1	19.4	5.6
こども配食(26)	16.0	0.0	15.4	23.1	46.2	38.5	38.5	3.8	65.4	34.6	7.7
会食会(15)	0.0	6.7	26.7	73.3	33.3	66.7	26.7	0.0	6.7	33.3	13.3
地域食堂等(56)	5.6	12.5	16.1	58.9	25.0	58.9	28.6	17.9	23.2	21.4	8.9
こども食堂(142)	11.3	14.8	21.8	54.9	28.9	45.1	37.3	4.9	29.6	20.4	7.7
フードパントリー(78)	2.6	5.1	6.4	10.3	42.3	19.2	41.0	1.3	80.8	48.7	10.3
合計(389)	12.3	8.5	16.5	43.7	40.9	40.6	32.9	5.1	38.3	27.5	8.2

マーカーは、活動毎の第一位、第二位、第三位

図表8 ボランティアに対する活動の効果（3つまで選択。実施中の活動でボランティアがいる活動のみ）【2021年調査】

(%)

	が身につく	望ましい生活リズムや習慣	学びの機会になる	食育の機会になる	食事を楽しむことができる	栄養を摂ることができる	他の人と交流できる	心のよりどころとなる	出番や役割を得られる	経済的な支援になる	相談・発信できる	困りごとを	地域や社会の情報を得られる
配食サービス(52)	23.1	32.7	3.8	1.9	0.0	86.5	30.8	61.5	5.8	11.5	23.1		
こども配食(28)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	85.7	39.3	71.4	7.1	10.7	35.7		
会食会(14)	14.3	21.4	7.1	14.3	0.0	64.3	21.4	64.3	7.1	28.6	57.1		
地域食堂等(59)	11.9	11.9	3.1	15.3	3.4	71.2	37.3	86.4	1.7	11.9	23.7		
こども食堂(151)	3.3	25.8	4.0	9.9	4.0	76.2	37.7	70.9	2.9	6.0	28.5		
フードパントリー(69)	0.0	21.7	2.9	1.4	0.0	78.3	29.0	78.3	2.9	5.8	44.9		
合計(373)	7.0	22.4	3.5	7.5	2.1	77.5	34.6	73.2	3.5	8.8	31.6		

マーカーは、活動毎の第一位、第二位、第三位



2023年アンケートの概要

- 「食をともなう居場所づくりの支援に関するアンケート」
- 実施主体:(一社)全国食支援活動協力会、協力:清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院) 原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)
- 実施期間:2023年8月4日～10月15日
- 調査対象:①自治体、社会福祉協議会など、②食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体
- 有効回答:①自治体、社会福祉協会268団体、②活動団体(313活動)

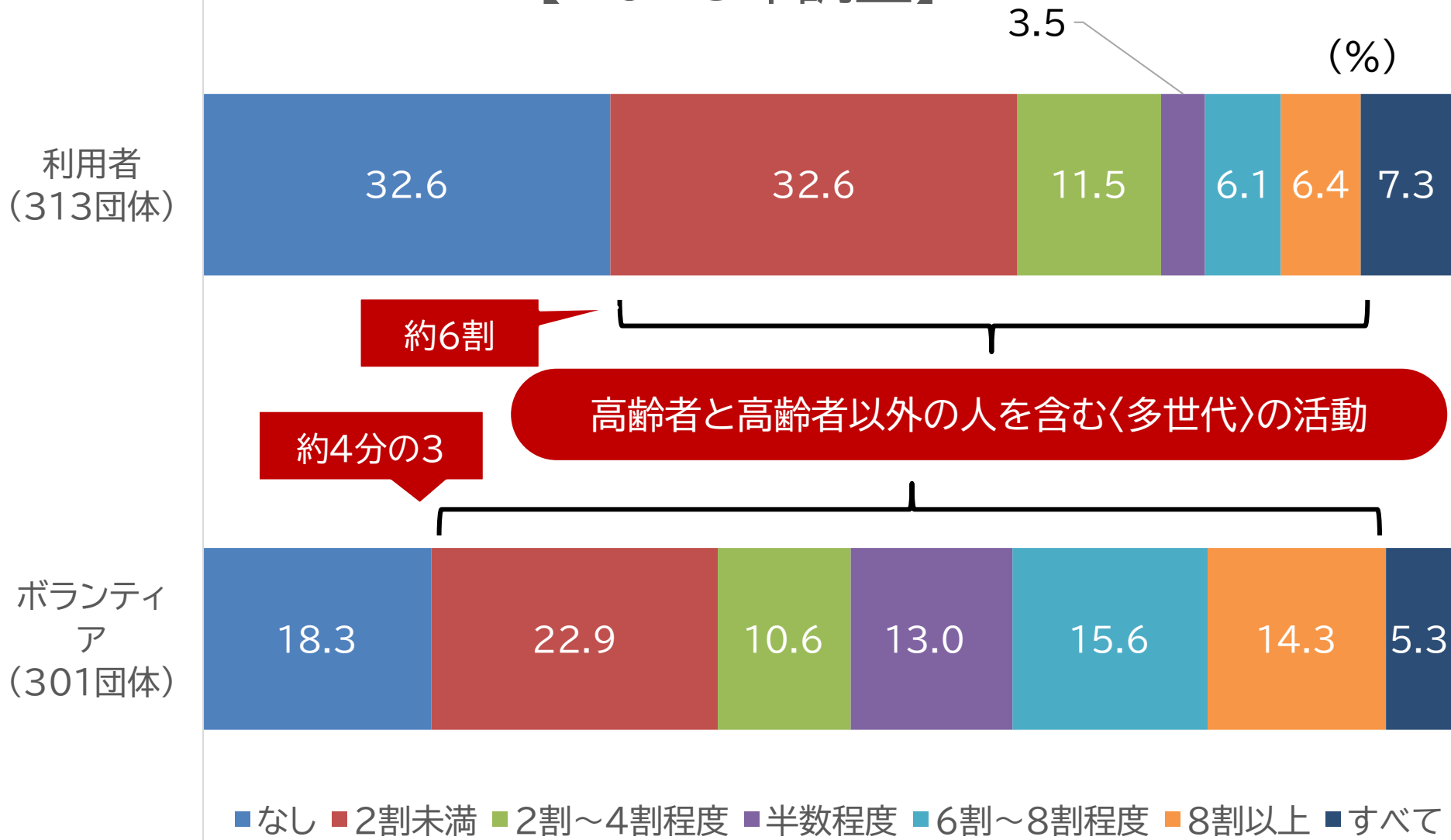
図表9 活動団体からの活動種別・有効回答数【2023年調査】

	全体	
	活動数	%
こども食堂	134	42.8
こども配食	16	5.1
子どもの居場所	27	8.6
学習支援	11	3.5
就労支援	1	0.3
若者支援	5	1.6
フードパントリー	33	10.5
配食サービス	4	1.3
会食会	6	1.9
地域食堂	44	14.1
高齢者の居場所	23	7.3
不明	9	2.9
合計	313	100.0

図表10 自治体・社協からの回答部局別・有効回答数
【2023年調査】

	全体	
	団体数	%
福祉・介護部局	71	27.2
子ども部局	37	14.2
福祉・子ども以外の部局	14	5.4
社会福祉協議会	86	33.0
その他	9	3.4
不明	44	16.9
合計	261	100.0

図表11 高齢者(65歳以上)の人の割合 【2023年調査】



図表12 【活動団体】活動がボランティアにとってもつ価値

【自治体・社協】活動が市民にとってもつ価値（3つまで選択）【2023年調査】

	活動団体	自治体・社協
	(N=301)	(N=268)
他の人と交流できる	① 67.8	① 61.2
出番や役割を得られる	② 42.5	⑧ 14.2
学びの機会になる	③ 30.6	⑨ 8.6
心のよりどころになる	④ 27.9	⑥ 25.0
食事を楽しむことができる	⑤ 23.9	⑤ 25.4
「孤立解消」のきっかけとなる	⑥ 20.6	② 45.5
食育の機会になる	⑦ 19.6	⑨ 8.6
地域や社会の情報を得られる	⑧ 18.3	⑨ 8.6
困りごとを相談・発信できる	⑨ 11.3	④ 28.7
経済的な支援になる	⑩ 6.6	⑦ 17.9
栄養を摂ることができる	⑪ 5.6	③ 30.6
望ましい生活リズムや生活習慣が身につく	⑫ 3.0	⑫ 6.0

図表13 【活動団体、自治体・社協】活動が地域や社会にとってもつ価値
(3つまで選択)【2023年調査】

	活動団体	自治体・社協
	(N=312)	(N=268)
住民どうしのつながりができる	① 47.4	① 48.9
子どもが健やかに成長できる	② 43.6	⑧ 18.3
多世代が交流できる	③ 42.3	④ 25.0
活動を通じて孤立解消につながる	④ 31.1	① 48.9
行政では対応できないニーズに対応できる	⑤ 27.9	⑤ 24.6
地域の課題を発見する機会になる	⑥ 18.3	⑥ 22.4
困りごとのある人とつながれる	⑦ 23.7	⑦ 20.1
食生活の改善になる	⑧ 14.7	⑨ 17.2
引きこもりや生きづらさをかかえた人とつながる	⑨ 13.5	⑩ 10.1
食品ロスが減らせる	⑩ 12.2	⑪ 6.7
高齢となっても住み慣れた地域で暮らせる	⑪ 10.3	③ 31.7
経済的格差が減少する	⑫ 3.5	⑫ 1.5